

子どもたちにも成果をもたらす G8 とするために

2012 年 G8 サミット ワールド・ビジョン政策提言書

米国キャンプ・デービッドに集う G8 諸国が検討すべき課題は、切迫した経済問題だけではありません。それぞれの国境を超越した視点から、世界中で苦しんでいる何百万人もの子どもたちの最も差し迫ったニーズへの対処を検討すべきです。2012 年、世界で最も大きな経済を持つ 8 力国は、世界から飢餓をなくすための取り組みの焦点を定め直し、これを確固たるものとするために、強いリーダーシップを発揮すべきです。2012 年は、そうしたリーダーシップを示す上で、歴史的なチャンスでもあるのです。

過去 1 年間の東アフリカ、西アフリカでの食糧危機により、何百万人もの人々が、干ばつによる最悪の事態を生き延びなければならないという苦難の日々に直面しています。こうした危機は、メディアの見出しを飾り、注目を集めるニュースとなりますが、その一方であっという間に消えてしまう話題でもあります。しかし世界では、10 億人近くの人々が慢性的な飢餓状態のまま暮らしており、1 億 7 千万人以上の子どもたちが十分な食事をとれないため、成長し、学ぶ上で、取り返しのつかないダメージを被っています。途上国で暮らす 5 歳未満の子どもたちの 3 分の 1 は栄養不良に苦しんでいます。学習能力や生産能力の低下という、その影響は生涯にわたるものであり、国家経済にも負の影響をおよぼすものです。

G8 をはじめとする世界各国のリーダーには、直ちに飢餓をなくす力があります。食料安全保障と栄養の改善に向け、約束を果たすという強い姿勢を改めて宣言することで、近い未来に起こり得る惨事を防ぎ、何百万人もの子どもたちの生活と将来への希望を向上させる上で大きな役割を果たすことができるのです。求められる解決策はすでに明らかになっており、それを実行に移すロードマップも存在しています。これまでのサミットで G8 が発表してきた約束により、何十年間におよんだ農業と栄養への過少投資という動向を、ある程度逆転することができました。しかし今日、既存の約束を果たすと同時に、飢餓のない世界の実現という目標の達成に向けた機運を生み出し、協調的な取り組みを増加させることが、ますます求められているのです。

ミレニアム開発目標の達成期限が迫る中、本年度の G8 サミットは、食料安全保障と栄養で成果を上げ、母親と子どもの保健を向上させるための責任を果たすという継続的な約束を示す上で、重要な節目となります。2012 年、G8 は世界で最も豊かな国々が、これまで宣言してきた約束を守り、何百万人もの子どもたちが人生のスタートを最善の形で切ることができるよう、その役割を果たすという強い意図を世界各国に示すべきです。特にメキシコで開催予定の G20 サミットやブラジルで開催される国連持続可能な開発会議（リオ+20）の参加国に向けて、強い意志を示すべきです。

ワールド・ビジョンは、以下の政策を G8 に提言します。

1. 2012 年末までに、ラクイラ食料安全保障イニシアティブの一環として宣言されている、食料安全保障と栄養に関する既存の約束の達成

2009 年にイタリアで開催されたサミットにおいて、G8 をはじめとする世界各国の政府は、ラクイラ食料安全保障イニシアティブの一環として 220 億ドルを提供するという、歴史的な約束をしました。その終了期限が迫る今日、実際に提供された額は、約束された総額の半分以下となっています。最近発表された共同声明において、アメリカ政府とイギリス政

府は 2009 年ラクイラ G8 サミットで宣言した資金提供の実行を改めて宣言しています¹。

- ラクイラ食料安全保障イニシアティブは、2012 年末にその終了期限を迎えます。そのため G8 各国が、ラクイラで宣言した約束を果たすべく、予定されていた資金の提供について、今年度末までに詳細な情報を公表すべきです。

2. 最優先諸国で食料の安全保障と栄養支援を強化し、2015 年までに栄養不良の子どもが 1,500 万人減少するよう、明確かつ達成可能な目標の設定

キャンプ・デービッドにて食料安全保障に関する新たなイニシアティブの検討を予定している G8 の取り組みを、ワールド・ビジョンは歓迎します。ただし、現在の食料安全保障イニシアティブに対する懸念、特に約束された資金が依然として提供されていない点を鑑みると、G8 はラクイラ食料安全保障イニシアティブを実施、改善するための計画を作成すべきです。

改善策の鍵は、栄養の重視とその投入資金の増加にあります。特に、妊婦と幼児の栄養を重視すべきです。ある研究では、妊娠してから 2 歳の誕生日までの 1,000 日間における栄養への投資から得られるリターンが生涯にわたるものであることが明らかとなりました。今年の G8 外相会合では、この 1,000 日間における栄養摂取の向上に関する戦略・政策の「具体的な影響力」が指摘され、1,000 日間を重視した「栄養への取り組み拡充 (Scaling Up Nutrition: SUN)²」は、さらなる取り組みに値するものであると評価されています。

G8 による新たな食料安全保障と栄養に関するイニシアティブには、以下の点を含むべきです。

- 栄養不良の子どもを 1,500 万人減少させることを含め、食料安全保障と栄養支援を強化するための明確かつ達成可能な目標を設定してください。
- 農業および食料安全保障に関する国家投資計画を既に策定している低所得国で明らかとなっている資金不足を解消すべく、資金を提供し、これらの国々における「栄養への取り組み拡充 (Scaling Up Nutrition: SUN)」の実施を支援してください。
- 小規模農民、特に女性の農民に対する支援を重視してください。
- 透明性の高い、確固たるモニタリングと評価のメカニズムを導入してください。
- 国家および地域の食料安全保障・栄養計画に、市民社会が利害関係者として含まれるようにしてください。

¹ 『グローバルな開発に向けたアメリカとイギリスのパートナーシップに関する 2012 年共同ファクトシート (2012 Joint Fact Sheet on US-UK Partnership for Global Development)』 参照

(<http://www.whitehouse.gov/the-press-office/2012/03/14/joint-fact-sheet-us-uk-partnership-global-development>)。

² 「栄養への取り組み拡充 (Scaling Up Nutrition: SUN)」 枠組みは、飢餓および低栄養との戦いにも取り組むことを誓った 100 以上の団体やグループによるもので、妊娠から 2 歳の誕生日までの 1,000 日間における栄養を向上させるという、すでにその効果が証明されている解決策の拡充に焦点を当てています。詳しくは、www.scalingupnutrition.org を参照してください。

3. 説明責任と透明性の強化

近年、G8 はこれまで発表してきた約束に関する説明責任をますます重視するようになってきました。しかしそのプロセスは一貫性に欠け、各年度における G8 議長国のリーダーシップに左右されてきました。説明責任とは、各国政府や国際機関、組織がその信頼を築き、維持する手段です。G8 にとって、幅広い利害関係者を包含しつつ、複数年にわたって比較可能な情報をタイムリーに提供する、より強固な説明責任の手段を実施することが重要です。

説明責任を向上させるため、G8 は以下の取り組みに着手すべきです。

- 母親、新生児、および子どもの保健、栄養、食料安全保障に関する約束を含め、G8 がこれまで宣言してきたすべての約束について、その進捗状況を毎年報告してください。
- 資金提供に関する透明性の高い最新の情報、さらにアウトプット（成果）とアウトカム（効果）に関する定性的・定量的評価を公表してください。
- G8 の説明責任のプロセスに市民社会の意見を取り入れてください。
- 各 G8 サミットの開催前、遅くとも 30 日前までに「アカウンタビリティ・レポート（説明責任報告書）」を発表してください。